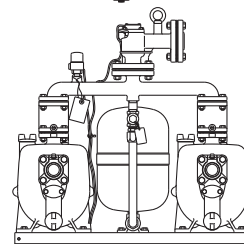


大切な「水」をあなたへ……川本ポンプ

吸上げ用
定 圧 給 水 ポンパー® J
J S B 形
取扱説明書



このたびは、定圧給水ユニット・ポンパーJをお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

ご使用前に取扱説明書を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。取扱説明書には危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されております。

また、常にこの取扱説明書をお手元におかれて作業されることをお勧めします。

< 目 次 >

1 はじめに . . .	2	5 機 能 . . .	6	9 結線方法	10
2 仕 様 . . .	2	6 据 付 . . .	6	10 運 転	13
3 製品の構成 . . .	3	7 配 管 . . .	9	11 保守・点検	16
4 作動原理 . . .	6	8 電気工事 . . .	10	12 故障の原因と対策 . . .	18

⚠️ 特に注意していただきたいこと

1. 排水処理、防水処理されていない場所には設置しないでください。水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。※排水処理、防水処理されていない場合の被害については責任を負いかねます。
2. アースを確実に取り付け、電源側に専用の漏電しゃ断器を取り付けてください。漏電や感電、火災の原因になります。
3. 運転中はモータや制御盤に触れないでください。高温になっている場合がありますので、火傷をする恐れがあります。
4. 空運転（ポンプに水のない状態での運転）および一定時間の締切運転（ポンプ内での水の流入、流出のない状態）はしないでください。ポンプが高温になり火傷をする恐れがあります。
5. 絶縁抵抗測定は250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。制御盤が破損する恐れがあります。

本文中の関連箇所にも製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されています。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠️ 危険：人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じると想定される内容。

⚠️ 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠️ 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

本文中 { } 内の従来単位、およびそれに基づく数値は参考として併記したものです。

1 はじめに

ポンプがお手元に届きましたら、下記をお調べください。

1. ご注文通りのポンプか、銘板を見てご確認ください。
形式、口径、全揚程、周波数、相数、定格出力など
2. 輸送中に破損した箇所や、ボルト・ナットなどのゆるみはないか、ご確認ください。
ゆるみがある場合は増し締めください。
3. ご注文の付属品が全てそろっているか、ご確認ください。
4. この製品は日本国内用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。
5. 適用範囲外での使用、注意書きなどの不遵守、不当な修理・改造、天災地変に起因するもの、設置環境（電源異常・異物・砂など）によるもの、法令・省令またはそれに準じる基準などに不適合のもの、不慮・故意による故障・損傷のもの、消耗部品の交換、転売による不具合などは保証対象外となる場合があります。
6. 弊社にお問い合わせの際は、『形式』及び『製造番号』をご連絡ください。
7. 不要な部品及び梱包材などの廃棄方法については、各自治体にご確認ください。

《不具合な点がございましたら、お手数でもご購入先へご照会ください》

2 仕 様

▲ 危 険

- 最高使用圧力以上では絶対使用しないでください。重大事故につながる恐れがあります。

▲ 注 意

- 用途に合った商品をお選びください。不適切な用途で使うと事故の原因になります。
- 決められた製品仕様以外では使用しないでください。感電や火災、漏水などの原因になります。
- ご使用環境に応じた期間で補修塗装を実施してください。ネジ部、防錆剤を塗布した加工部、錆止め塗装部などは、高湿度・結露・被水などのご使用環境で発錆し、思わぬ被害の恐れがあります。
- 仕様液質として記載のない液体などには使用しないでください。ポンプが故障し、漏電・感電・火災の原因になります。
- 生物（養魚場・生け簀・水族館など）の設備、または重要設備に使用する場合は、予備機を準備してください。ポンプ故障により、酸欠や水質悪化などが発生し、生物の生命に影響を与える恐れがあります。
- 食品関連の移送に使用する場合、使用材料のご確認など十分にご注意ください。異物が混入する恐れがあります。
- 銅合金をきらう生物などへの使用は避けてください。生物の生命に影響を与える恐れがあります。
- 危険・警告・注意ラベル類には人身への危害または財産への損害を引き起こす可能性のある事項が記載してありますので必ず遵守ください。守らないと機器が故障したり感電、火災、けがなどの原因になります。

2. 1 仕 様

揚 液 (液質 / 液温)	清 水 [pH5.8~8.6 / 0~40℃ (但し、凍結なきこと)]、鉛水質基準適合品
塩素イオン濃度	200mg/L以下
含有固形物の濃度/大きさ	50mg/L以下/0.3mm以下
設置場所 (周囲温度/湿度)	屋 内 (0~40℃/90%RH以下)
使用電源	電 圧 200V (許容範囲90~110%、不平衡率3%以下)
	周波数: 50/60Hz (許容範囲±1Hz)
吸込条件	吸上げ全揚程-7m以内 (最大-8m※) <20℃>
ポンプ	J S 2形自吸ポンプ
運転方式	単独、交互運転
主回路開閉器	電磁接触器 (MC)、SSC (交互運転)
モータ保護装置	単独運転: サーマルリレー
	交互運転: 電子サーマル

※吸上げ全揚程-8mの場合には、カタログ最大水量までは使用できません。

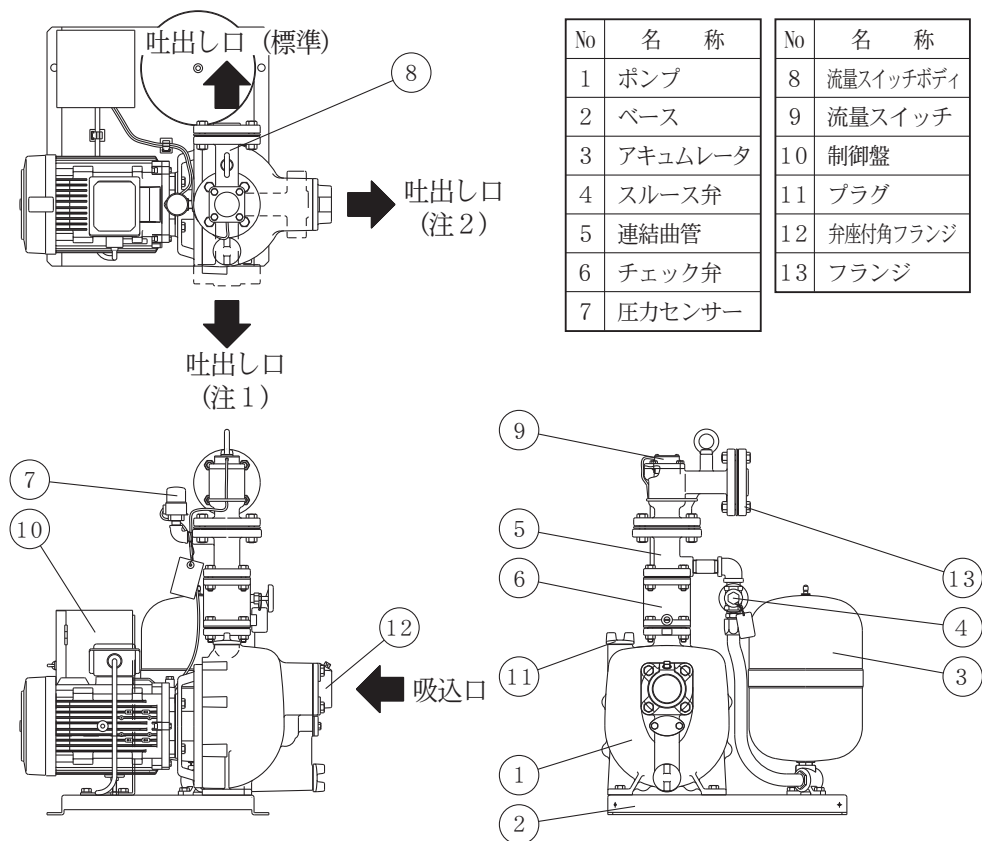
3 製品の構成

3. 1 構造図

下図はJ S B形の代表を示すものであり、機種により多少異なるものもあります。

<単独運転>

<図-1>

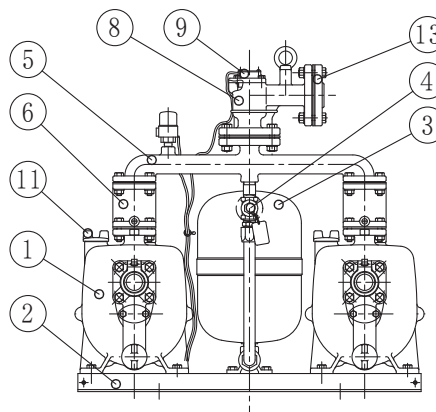
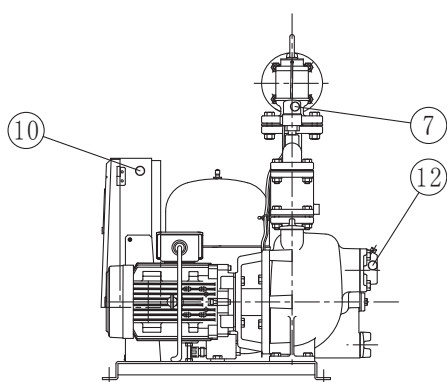
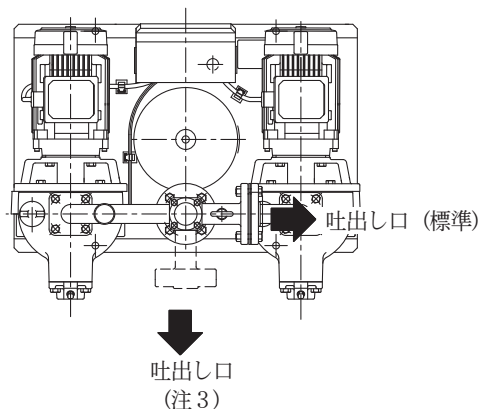


(注1, 2) : 吐出し口は流量スイッチボディと連結直管のボルト・ナット固定を取り外し流量スイッチボディの向きを変えることにより、3方向どちらにも接続可能です。向きを変更させた際はボルト・ナット固定の緩みがないか確認してください。ボルト・ナット固定が緩いま吊り上げ、運転を行うと破損やけがの恐れがあります。但し、ポンプカバー接地の際は(注2)方向へは接続できません。

〈交互運転〉

〈図-2〉

No	名 称	No	名 称
1	ポンプ	8	流量スイッチボディ
2	ベース	9	流量スイッチ
3	アキュムレータ	10	制御盤
4	スルース弁	11	プラグ
5	連結曲管	12	弁座付角フランジ
6	チェック弁	13	フランジ
7	圧力センサー		



(注3) : 吐出し口は流量スイッチボディと連結曲管のボルト・ナット固定を取り外し流量スイッチボディの向きを変えることにより、2方向どちらにも接続可能です。向きを変更させた際はボルト・ナット固定の緩みがないか確認してください。ボルト・ナット固定が緩いまま吊り上げ、運転を行うと破損やけがの恐れがあります。

3. 2 標準付属品

名 称	数量
取扱説明書	1

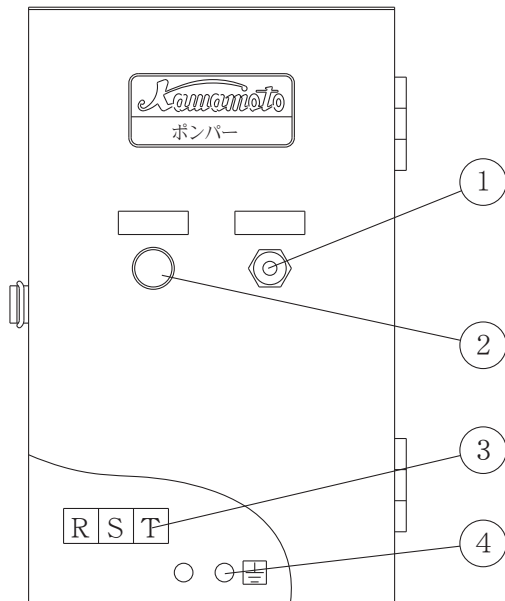
3. 3 特別付属品

名 称	備 考
防振架台	交互機種用、単独機種用
砂こし器	
基礎ボルトセット	
ナット M6	液面制御部品 (電極棒接続用)
ポンプカバー 52C	単独機種用
サーモスタット	ヒータ「オン」「オフ」制御用
電極保持器	液面制御部品
電極棒 1000	液面制御部品
電極セバレータ	液面制御部品
ヒータ 200V-110W	凍結防止用

3. 4 制御盤 詳細図

＜単独運転＞

・ ECF5-B

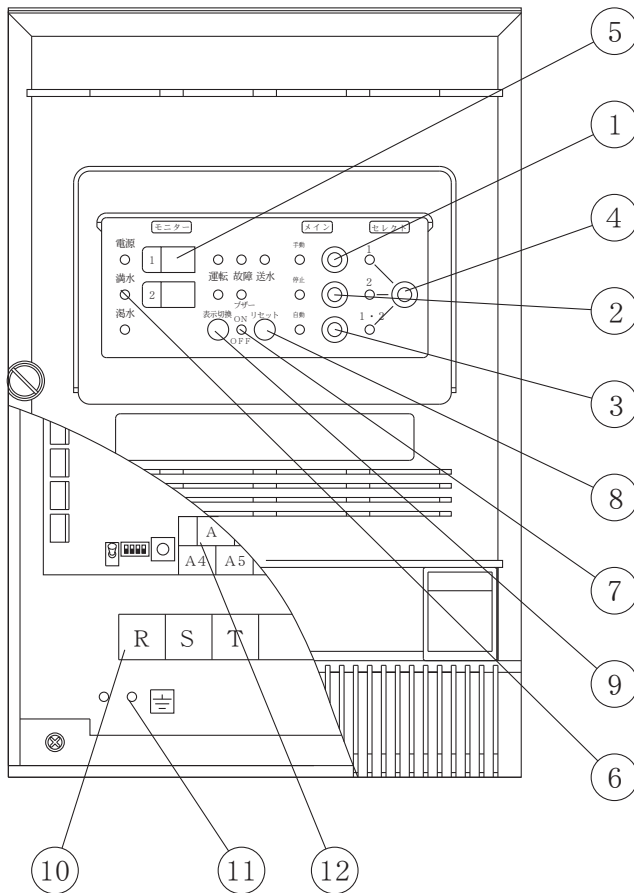


No	名 称	備 考
1	メインスイッチ	手動・停止・自動
2	表示灯	
3	端子台	
4	アース端子	

＜交互運転＞

・ ECF8-B

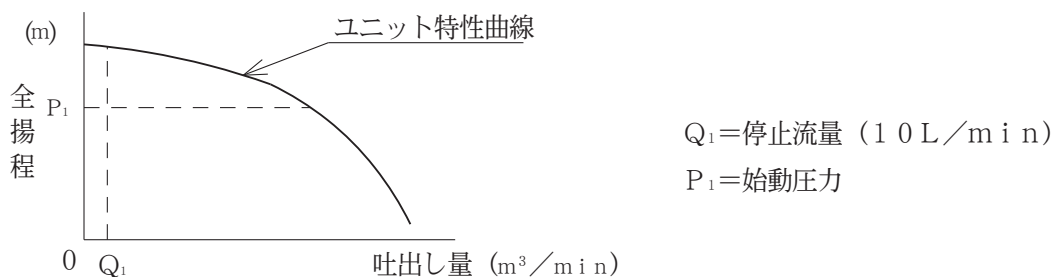
＜図-3＞



No	名 称	備 考
1	メインスイッチ	手動運転
2	メインスイッチ	停止
3	メインスイッチ	自動運転
4	セレクトスイッチ	1号・2号ポンプ切替用
5	表示パネル	電流、電圧、故障等
6	表示灯	
7	ブザースイッチ	ON・OFF用
8	リセットスイッチ	故障リセット
9	表示切替スイッチ	
10	端子台	電源
11	アース端子	
12	端子台	各種出力、液面制御

4 作動原理

4.1 単独、交互運転



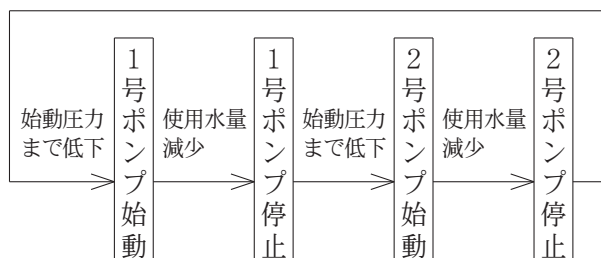
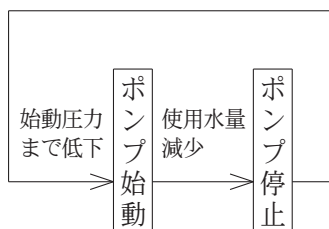
- (1) ポンプ停止中に、水が使用され圧力が P_1 まで下がると圧力センサーが検知し、ポンプは始動します。
- (2) ユニット特性曲線上で運転を続けます。
- (3) 使用水量が Q_1 以下になりますと、流量センサーが検知しポンプは停止します。

＜単独運転＞

- (4) (1)～(3)を繰り返します。

＜交互運転＞

- (4) (1)～(3)を1号ポンプ、2号ポンプが交互に繰り返します。



5 機能 (交互運転)

1. 少水量給水時における運転は、始動頻度を60回/時間以下に抑え、しかも強制的な運転時間を、通常は10秒～30秒に、特に始動頻度が多い場合は10秒～90秒に自動調整し、省エネ効果の高い給水を実現しました。
2. 無接点のSSC (ソリッドステートコンタクタ) を使用しているため、ポンプ始動時のマグネット投入音が無く静かです。制御盤内のMC (マグネットコンタクタ) は常時ONで、過電流時などのモータ保護時にOFFとなります。

6 据付

▲ 警告

- 荷下ろし、搬入、据付で本製品を吊り下げる場合は、カタログ、据付図にて質量を確認、取扱説明書にて吊り方を確認の上、正しく行ってください。また、吊り具の定格荷重以上の製品は吊らないでください。吊り下げが不完全な場合、落下によるけがの原因になります。
- 据付は取扱説明書に従って確実に行ってください。基礎の上に水平に設置し、基礎ボルトで固定してください。据付に不備があると漏電・感電・火災、落下・転倒によるけがの恐れがあります。またポンプ振動の原因になります。
- 適用される法規定 (電気設備技術基準・内線規程・建築基準法、水道法など) に従って施工してください。法規定に反するだけでなく感電・火災・落下・転倒によるけがなどの原因になります。
- 梱包は釘やホッチキスの針などに注意して開梱してください。けがをされる恐れがあります。
- ポンプを水道管に直接配管しないでください。水道法により禁止されています。また、水が逆流して水道水が汚染される恐れがあります。
- ポンプはポンプ室などの鍵の掛かる場所に設置するか、第三者が容易に触れられないように柵や囲いを設けるなどの対策をしてください。回転部・高温部などに触れ、思わぬけがをされる恐れや勝手に制御盤の設定やバルブの開・閉などを変更され、ポンプが正常に運転しなかったり、水が流れない恐れがあります。

- 屋外仕様を除き、屋外あるいは被水する場所には設置しないでください。発錆や故障、また絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。
- 樹脂、ゴム部品は現場焼却しないでください。燃やすと有害なガスが発生する恐れがあります。処理方法は各自治体にご確認ください。
- 機器の寿命を考慮し、設置は風通しがよく、ほこり、腐食性及び爆発性ガス、塩分、湿気、蒸気、結露などがなく、風雨、直射日光の当たらない所を選んでください。悪環境下では、モータ・制御盤の絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。
- 爆発性雰囲気中では使用しないでください。火災の恐れがあります。

▲ 注 意

- 据付、点検などの作業を行う前に、周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。
- 排水処理、防水処理されていない場所には設置しないでください。水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。※排水処理、防水処理されていない場合の被害については責任を負いかねます。
- 機器に衝撃を与えたり、転倒させないでください。破損する恐れがあります。
- 標高1000m以下の場所に設置してください。やむをえず、標高1000mを超える場所に設置する場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 浴室など湿気の多い場所には設置しないでください。漏電すると感電する恐れがあります。
- 機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料などの有害ガス、腐食性成分を含んだガスが発生する場所またはほこりの多い場所には設置しないでください。漏電や火災の原因になることがあります。
- 飲用水として使用する場合は、保健所の指示に基づき設置時および定期的に、水質検査を実施してください。水質が悪化していると、飲んで体調を損なう原因となります。
- 万一のポンプ停止に備えポンプの予備機を準備してください。ポンプの故障により断水し、設備が停止する恐れがあります。
- 設備によっては吐出側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後、ご使用ください。製品製造時の切削油、ゴムの離型剤、異物などや配管系に含まれる切削油、異物などが扱い液に混入する恐れがあります。
- 相フランジはポンプから外して配管にねじ込んでください。破損・漏水の恐れがあります。
- ポンプ・モータ・制御盤などの機器の上には乗らないでください。製品の破損や転倒してけがをする恐れがあります。
- 故障などの警報はブザーなどを設け確認できるようにしてください。故障発生時、気が付かずに重大事故につながる恐れがあります。
- 制御盤への穴加工等の改造はしないでください。加工をして部品に切り屑・鉄粉などが付着すると故障や火災の原因になります。
- 制御盤内に付属品以外の物を入れないでください。火災が発生する恐れがあります。
- 点検時以外はバルブ類の開閉は注意札に従ってください。正常に動作できずユニット破損の恐れがあります。
- 吸上全揚程の仕様範囲外では使用しないでください。ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- ポンプ据付前に必ず井戸の清掃、配管内外部に付着した砂などの異物を除去してください。砂などの異物を吸上げると砂噛みなどにより揚水できない恐れがあります。
- 井戸の水位は変動するため運転水位にご注意ください。水位が下がった時に、空気を吸込み空運転する原因になります。
- 製品を包装しているビニール袋をかぶらないでください。窒息の恐れがあります。
- 機器の上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。機器の破損や転倒してけがをする恐れがあります。
- 配管のネジ部にはシール剤を使用し、水漏れのないように確実に施工してください。確実に施工できていないと水漏れの原因になります。
- フラッシュバルブなどの急激な流量変化を伴う機器を使用の場合は、事前に最寄りの弊社営業所へご相談ください。ポンプ停止中にフラッシュバルブを使用すると管内圧力が急激に低下し、圧力変動やエア混入などの恐れがあります。
- 冬期などで凍結の恐れがある場合は、保温材・ヒータ取付などにより凍結防止を行ってください。凍結による破損事故につながる恐れがあります。

- 吸込配管は、ポンプ各々に設け、鳥居配管は避け、上り勾配（1／100以上）を付け、できるだけ短く、曲げる箇所を少なくしてください。ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- 配管内に空気溜りができないようにしてください。配管内に空気溜りがあると、ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- 周囲にモータ冷却の通風を妨げるような障害物がある場所に設置しないでください。破損、焼損、火災の原因になります。

6. 1 据付時のご注意

- (1) 移動・搬入の際は、＜図-4＞のようにアイボルトにシャックルなどを掛けて吊ってください。アキュムレータなどに掛けますと、破損することがあります。
- (2) 水平に据付け、基礎ボルト（注1）でしっかりと固定してください。
基礎が水平でなく凹凸があると、ベースがねじれ故障の原因になります。
（注1）基礎ボルトは別途お買い求めください。
（推奨基礎ボルトサイズ：M12×160＜4本＞）

6. 2 設置場所の選定

- (1) 分解・組立が便利で、風通しが良く、雨水・直射日光の当たらない涼しい場所にしてください。
- (2) ポンプの周囲温度が40℃を越えない場所にしてください。
- (3) ポンプはできるだけ水源に近く、吸込高さ（吸込液面からポンプ中心までの高さ）が低くかつ吸込配管の横引き長さができるだけ短くなる所に設置してください。
- (4) 吸込全揚程は-7（-8）m以内にしてください。但し、液温が20℃を超える場合は下表のように補正する必要がありますのでご注意ください。

（例）液温40℃の場合

$$\text{吸込み全揚程} = -7\text{m} + 1\text{m} = 6\text{m}$$

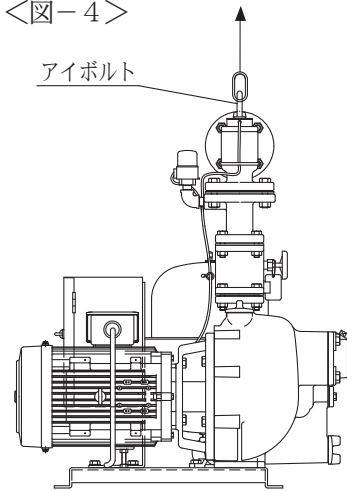
＜清水の温度補正值＞

液温 (°C)	補正值 (m)
30	0.5
40	1.0

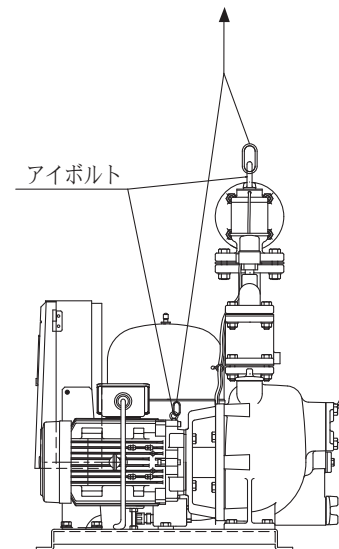
＜単独機種のみ＞

やむをえず雨水・直射日光の当たる場所に据え付ける場合には、ポンプカバー（特別付属品）を取り付けてください。

＜図-4＞



流量スイッチボディアイボルトの一点吊り



流量スイッチボディアイボルト、モータアイボルト（2箇所）の3点吊り

▲ 注意

- 砂や異物を吸い込ませないでください。始動不能や動作不良の原因になります。
- 配管のネジ部にはシーリング剤を使用して、水漏れのないように確実に施工してください。確実に施工できていないと水漏れの原因になります。
- 冬期などで凍結の恐れがある場合は、保温材・ヒータ取付などにより凍結防止を行ってください。凍結による破損事故につながる恐れがあります。
- 吸込配管は、ポンプ各々に設け、鳥居配管は避け、上り勾配（1/100以上）を付け、できるだけ短く、曲げる箇所を少なくしてください。ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- 配管内に空気溜りができないようにしてください。配管内に空気溜りがあると、ポンプが正常に運転しない恐れがあります。

7. 1 共 通

- (1) 配管の荷重が直接ポンプにかからないように、防振継手および配管支えを設置してください。
- (2) 凍結防止のため、配管には保温材を巻いてください。また、ポンプにもヒータ（特別付属品）を取り付けられることをお勧めします。尚、現地にヒータを取付けられる場合は、ご購入先、もしくは弊社指定サービス店までご連絡ください。

7. 2 吸込配管

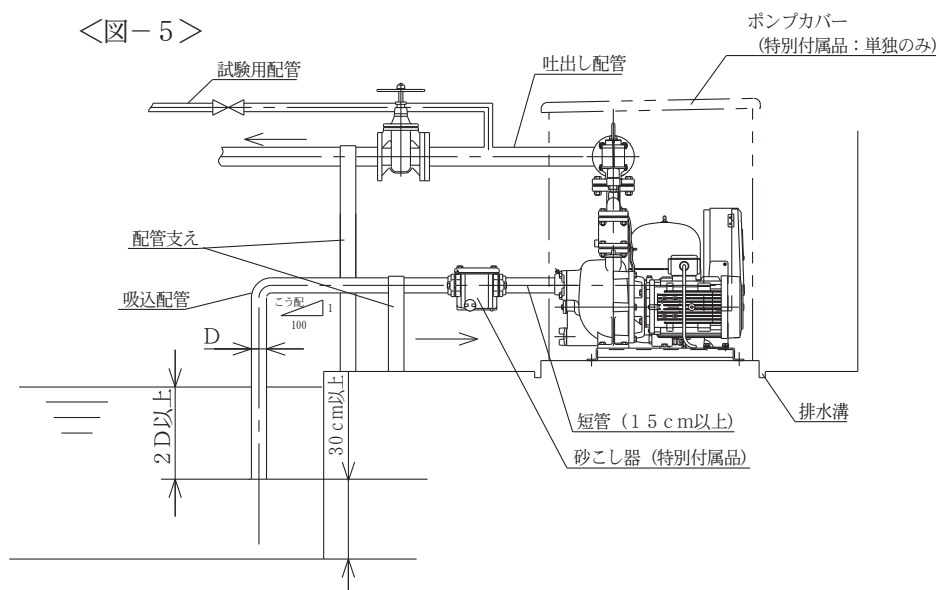
- (1) 吸込配管は各々設け、途中で合流させないでください。
- (2) 配管はできるだけ短く、曲がりのないようにしてください。
- (3) 異物等の混入が考えられる場合は、ストレーナ、砂こし器を取付けてください。
- (4) 吸込配管の先端は管径（D）の2倍以上深く、底より30 cm以上離してください。
- (5) 吸込配管は空気だまりが出来ないように、こう配をつけてください。
- (6) 吸込配管には、弁を設けないようにしてください。

7. 3 吐出し配管

- (1) メンテナンス用として吐出し口の近傍にスルース弁を設置してください。
- (2) メンテナンス用に、試験用配管の設置をお勧めします。

7. 4 ポンプカバー取付上の注意（単独機種のみ）

- (1) ポンプに直接防振継手を取付ける場合に、ポンプカバーと干渉する場合があります。その際には、ポンプと防振継手の間に短管（15 cm以上）を取付けてください。



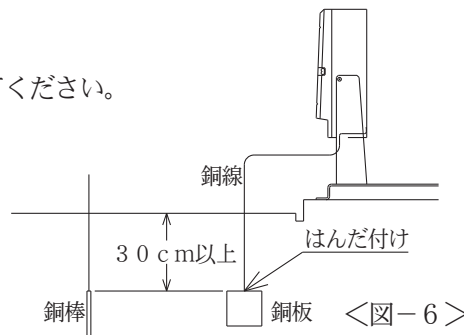
▲ 警 告

- 電気工事は、「電気設備技術基準」および「内線規程」に従い専門技術者により確実に施工してください。配線、接続に不備があると、故障・漏電・感電・火災の原因になります。
- 接地工事は通電前に必ず行ってください。アース線を確実に取り付けないで運転すると故障、漏電・感電・火災の原因になります。
- 配線作業などで取り外した端子カバーは必ず元通りに取り付けしてください。感電やけがの恐れがあります。
- 電源投入前に配線接続部・結線部が緩んだり外れたりしていないか、確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、火災・感電の原因になります。
- タコ足配線（複数の電気機器を接続）は避け、専用配線にて施工してください。漏電・感電・火災の原因になります。
- 電源プラグ・配線接続部・結線部・端子部などのほこりを除去してください。ほこりの付着などを放置すると発熱し、火災の原因になります。

▲ 注 意

- 電源ケーブルや制御線を同一管内またはダクト内に併設させないでください。本製品や他の機器が誤動作する恐れがあります。

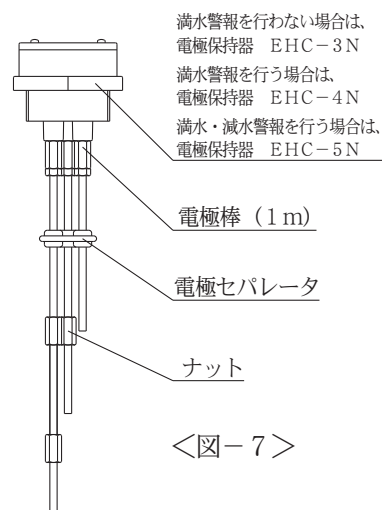
8. 1 電源には必ず漏電しゃ断器を取付けてください。
8. 2 電源線を、R. S. T（三相）端子に接続してください。
8. 3 制御盤内にアース端子がありますので、接地工事を行ってください。
アースは<図-6>のように、30cm角以上の銅板、または太さ1cm・長さ40cm以上の銅棒をはんだ付けして、湿っている場所へ30cm以上埋めてください。尚、アース線を扱われる場合は、元の電源を切ってください。



結線方法

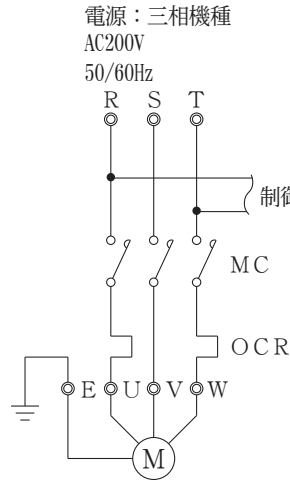
この給水ユニットは、主要部品（モータ、圧力センサー、流量スイッチ）の結線は行ってありますので、必要に応じ下記の結線のみ行ってください。

9. 1 液面制御（交互機種のみ）
液面制御を行うには、<図-7>の部品が必要です。
P4の [3] 3. 3 特別付属品を参照して、別途お買い求めください。
(1) 受水槽の水位に応じて電極を組立ててください。<図-7> レベルセンサーの作動は、水質の影響により水位差が数cm変化しますので、ご注意ください。
(2) 工場出荷時には、E1-E3間に短絡線が取り付けられていますので、短絡線を取り外してください。
(3) <図-9>の結線図を参照して、結線してください。
(4) 抵抗内蔵の電極保持器 EHC-3またはEHC-4を使用する場合は、内部の抵抗を取り外してください。
9. 2 外部信号（交互機種のみ）
監視盤などと接続するための外部信号用・無電圧出力端子です。
<図-9>の端子接続図を参照して、結線してください。
9. 3 単独運転（ECF5-B）制御盤展開接続図

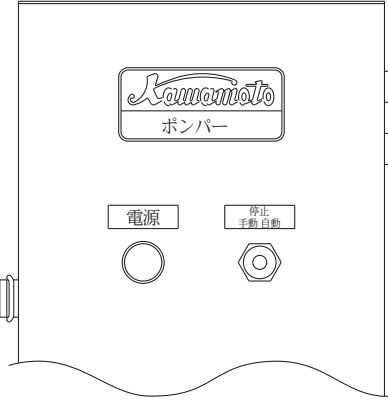


〈図-8〉

・主回路部



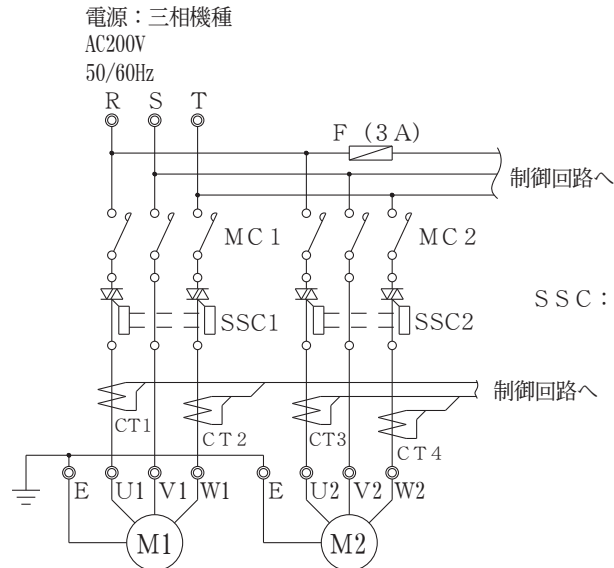
・制御盤表面の表示・操作部



9. 4 交互運転 (ECF8-B) 制御盤展開接続図

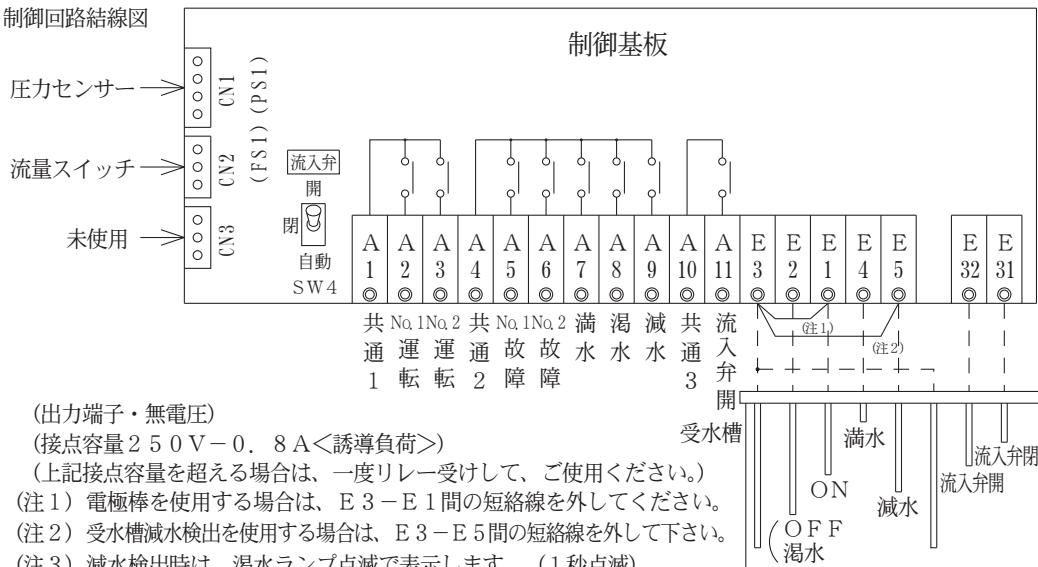
〈図-9〉

・主回路部



SSC：ソリッドステートコンタクタ

・制御回路結線図



(出力端子・無電圧)

(接点容量 250V-0.8A<誘導負荷>)

(上記接点容量を超える場合は、一度リレー受けて、ご使用ください。)

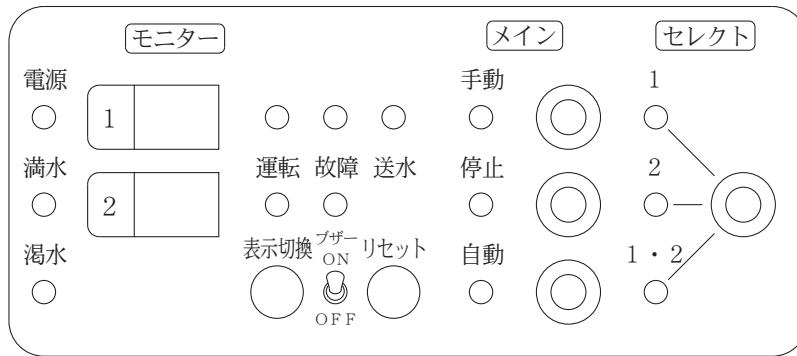
(注1) 電極棒を使用する場合は、E3-E1間の短絡線を外してください。

(注2) 受水槽減水検出を使用する場合は、E3-E5間の短絡線を外して下さい。

(注3) 減水検出時は、渴水ランプ点滅で表示します。(1秒点滅)

また、流入弁動作時は変速点滅します。(2回点滅、1秒休止)

・制御盤表面の表示・操作部



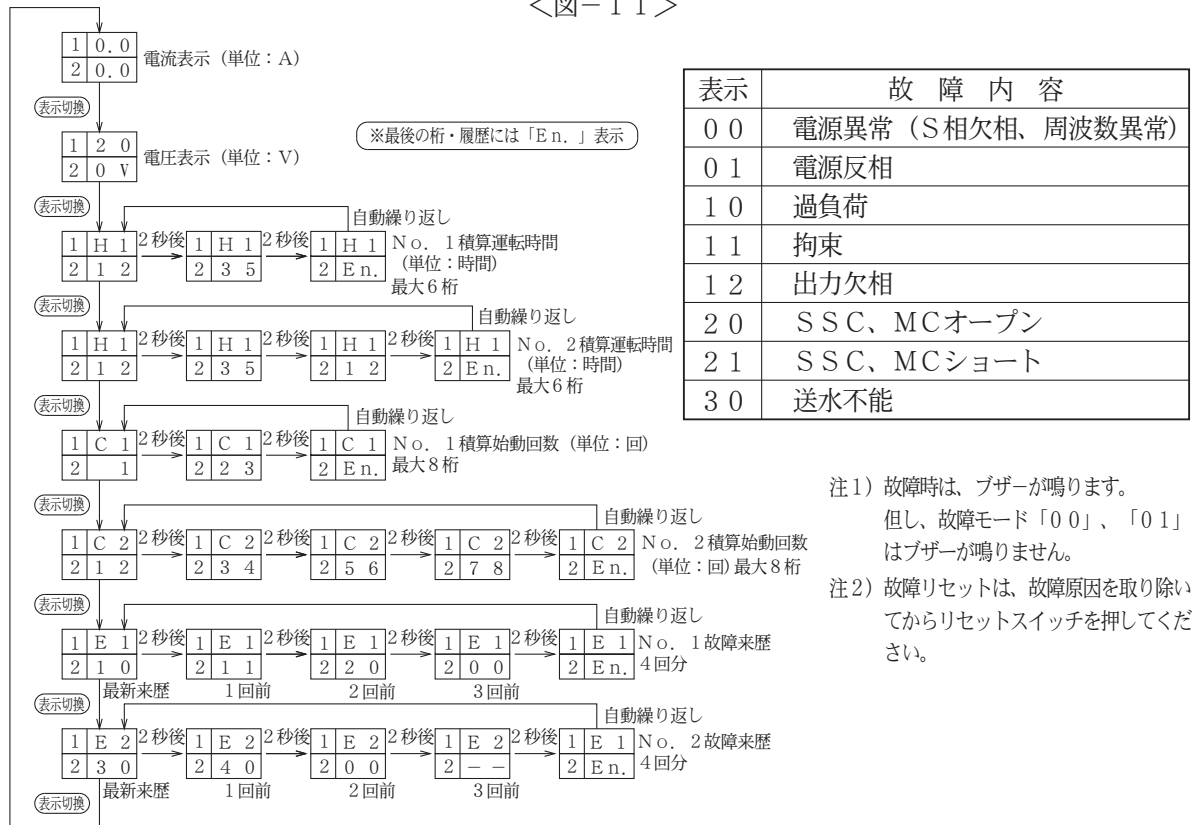
<図-10>

9. 5 制御盤表示パネル操作方法 (単独運転機種は除きます)

制御基板の表示パネルにて、<図-11>に記載の各種表示ができます。

<通常表示モード>

<図-11>



▲ 警 告

- 配線を取り付けたり取り外したりする場合、必ず電源を遮断して作業を実施してください。感電する恐れがあります。
- 電源を投入後及び通電状態にて制御盤の充電部やモータ端子、ケーブル先端部などに触れないでください。漏電・感電・火災の原因になります。
- 電源を投入した後は濡れた手で操作スイッチなどを操作しないでください。感電する恐れがあります。
- モータ、制御盤には水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。
- 停電の場合は電源スイッチを切ってください。復電時に製品及び設備機器の破損や急にポンプが運転してけがをする恐れがあります。
- 運転中は吸込口に手足等を近づけないでください。吸い込まれてけがをする恐れがあります。
- 製品を吊上げ状態での使用及び作業は行わないでください。落下及びけがの恐れがあります。

▲ 注 意

- 定格電圧以外では使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 運転中は回転部分に触れたり、開口部に指や異物などを入れないでください。感電、破損、けがの原因になります。
- 運転中、停止直後はポンプ、モータ、インバータの冷却フィン、ヒータなどに触れないでください。高温になっている場合がありますので、火傷をする恐れがあります。
- 制御機器の設定値の変更をする場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に依頼してください。勝手に設定値を変更したりすると、機器の故障や漏水の原因になります。
- 長期間ご使用にならない場合は電源を遮断してください。絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因となります。
- 空運転、一定時間の締切運転、取扱液中に空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。また、ポンプが過熱し火傷をする恐れがあります。
- ポンプの周辺、ケーブル、制御盤、ポンプカバー内に燃える恐れがあるものを置いたりかぶせたりしないでください。過熱して発火する恐れがあります。
- モータ軸端の保護キャップは、必ず取り付けて運転してください。保護キャップを外したまま運転しますと、手や指をけがする恐れがあります。
- ポンプ及び配管内に水が入っていることを確認してください。ヒータが断線したり、火災の原因になります。
- 50Hz仕様のポンプを60Hzで運転しないでください。過大圧力による破損、過負荷によるモータなどの焼損事故の恐れがあります。60Hz仕様のポンプを50Hzで運転しないでください。ポンプの性能が低下します。
- 制御盤の操作スイッチは正しく設定してください。不動作による設備の二次被害や故障の恐れがあります。
- 自吸運転は、プラグ（呼び水口）をしっかり締めて行ってください。自吸完了時に水が噴き出して、モータや制御盤（電装箱）などにかかると、漏電・感電、故障の原因になります。
- 正規の回転方向であることを確認してください。誤った回転方向で運転すると、振動などによりインペラナットやボルトがゆるみ、事故の原因になります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、落水などによる空運転などの恐れがあります。
- ポンプの運転は、仕様範囲内で行ってください。仕様範囲外での運転は、ポンプの故障や事故の原因になります。

- 試運転時は、ポンプ・配管内の空気抜きを十分行ってください。ポンプがエアロックを起こしたり、温度上昇し、故障・事故につながる恐れがあります。
- 呼び水及び排気をする場合は、本製品に水がかからないようにしてください。漏電・感電・火災、故障の原因になります。
- 長期間水を使用しなかった場合は、しばらく通水し、きれいな水になってから使用してください。水質が悪化していると、飲んで健康を損なう恐れがあります。
- バルブ類は正規の状態で使用ください。正常に動作できずユニット破損の恐れがあります。
- 砂や異物を吸い込ませないでください。始動不能や動作不良の原因になります。

10. 1 始動する前に

(1) 結線の確認

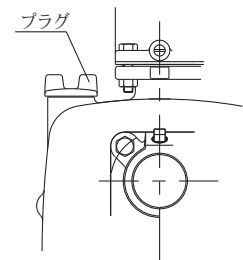
- ① 配線が正しく行われているか、端子ビスのゆるみはないか、ご確認ください。
- ② 電源をご確認ください。

(2) 配管の確認

- ① ボルト、ナットのゆるみはないかご確認ください。

(3) ポンプの呼び水

- ① 受水槽の水位をご確認ください。
- ② モータファンカバーのゴムブッシュを外してください。
- ③ プラグを外して呼び水をしてください。
- ④ インペラ内の空気を抜くためにモータの軸端をマイナスドライバーなどで回してください。
- ⑤ 気泡が出なくなったら、呼び水完了です。
- ⑥ プラグ、モータファンカバーのゴムブッシュを取付けてください。



<図-12>

(4) 回転方向の確認

<単独運転>

- ① 制御盤面のスイッチが「停止」であることを確認し、電源を入れてください。
- ② スwitchの「手動」と「停止」を一、二度入り切りして、回転方向をご確認ください。
正常な回転方向はモータ側から見て右回転です。
- ③ 逆回転の場合は、元の電源を切ってから電源側3相の内2相を入れ替えてください。

<交互運転>

- ① 配線が正しく行われていることを確認後、電源を入れてください。
電源が正常であれば、表示パネルに「0. 0」と電流が点灯表示されます。
電源に異常があれば、表示パネルに「00」または「01」と点滅表示されますので、原因を取り除いてください。
「00」：S相欠相、周波数異常（三相のみ）
「01」：電源反相（三相のみ）
- ② 制御盤面のセレクトスイッチが「1」であることを確認し、メインスイッチの「手動」と「停止」を一、二度入り切りして、1号ポンプの回転方向をご確認ください。
正常な回転方向は、モータ側から見て右回転です。
- ③ セレクトスイッチを「2」にして、2号ポンプの回転方向も同様にご確認ください。
(セレクトスイッチの切替は、メインスイッチが「停止」の状態でないといけません)
- ④ 逆回転の場合は、元の電源を切って、モータケーブル3本の内2本を入れ替えてください。（三相）

10.2 手動運転の確認

- (1) バルブ類の開閉をご確認ください。

ユニット吐出口、および試験用配管のスルース弁	→ 閉
アキュムレータのスルース弁	→ 開

<単独運転>

- (2) スイッチを「手動」にし、ポンプを運転させてください。
 (3) ポンプ圧力が上昇したら、試験用配管のスルース弁を徐々に開き、配管から水が勢いよく出るのをご確認ください。(数分しても揚水しない場合は、スイッチを「停止」にして、再度呼び水を行ってください)

<交互運転>

- (2) セレクトスイッチを「1」、メインスイッチを「手動」にしてください。
 (3) ポンプ圧力が上昇したら、試験用配管のスルース弁を徐々に開き、配管から水が勢いよく出るのをご確認ください。この時モニターランプの「送水」の1側が点灯します。(数分しても揚水しない場合は、メインスイッチを「停止」にして、再度呼び水を行ってください)
 (4) 完全揚水したら、スルース弁を閉めて、メインスイッチを「停止」にしてください。
 (5) 2号ポンプについても同様にご確認ください。

10.3 自動運転の確認

<単独運転>

- (1) スイッチを「自動」にしてください。

<交互運転>

- (1) セレクトスイッチを「1・2」、メインスイッチを「自動」にしてください。(メインスイッチを、「手動」から直接「自動」にすることはできません。一旦「停止」にした後、切り替えてください)

<共通>

- (2) 試験用配管のスルース弁をゆっくり開閉し、圧力が大きく変化しないことをご確認ください。
 (3) スルース弁を閉じて、ポンプが停止することをご確認ください。(縮切状態になっても始動頻度抑制用タイマーが作動していると、すぐにポンプは停止しませんが異常ではありません)
 (4) 始動、停止を繰り返し、4 作動原理の通りに運転するか、ご確認ください。
 (5) 試験用配管を設置されていない場合は、ユニット吐出口のスルース弁の開閉により、ご確認ください。

10.4 圧力センサーの調整範囲 (表-1)

周波数 Hz	運転方式	吐出し口径 mm	吸込口径 mm	形 式	モータ kW	標準仕様		
						吐出し量 m ³ /min	全揚程 m	始動圧力 MPa (kgf/cm ²)
50	単独	32	40	JSB2(3)-405S(E)1.5	1.5	0.13	25	0.2 {2.0}
				JSB2(3)-405S(E)2.2	2.2	0.14	29	0.24 {2.4}
		40	50	JSB2(3)-505S(E)3.7	3.7	0.27	33	0.28 {2.9}
	交互	32	40	JSB2(3)-405A(E)1.5	1.5	0.13	25	0.2 {2.0}
				JSB2(3)-405A(E)2.2	2.2	0.14	29	0.24 {2.4}
		40	50	JSB2(3)-505A(E)3.7	3.7	0.27	33	0.28 {2.9}
60	単独	32	40	JSB2(3)-406S(E)1.5	1.5	0.13	25	0.2 {2.0}
				JSB2(3)-406S(E)2.2	2.2	0.165	29	0.24 {2.4}
		40	50	JSB2(3)-506S(E)3.7	3.7	0.23	33	0.28 {2.9}
	交互	32	40	JSB2(3)-406A(E)1.5	1.5	0.13	25	0.2 {2.0}
				JSB2(3)-406A(E)2.2	2.2	0.165	29	0.24 {2.4}
		40	50	JSB2(3)-506A(E)3.7	3.7	0.23	33	0.28 {2.9}

1 0. 5 圧力センサーの調整：〈図-1 3〉をご参照ください。

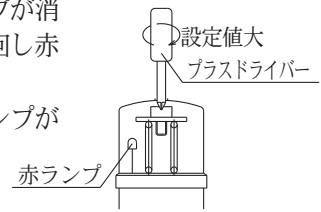
工場出荷時に圧力センサーを標準始動圧力〈表-1〉に設定しておりますが、現場の条件に合わせて再調整が可能です。調整を行う場合は下記要領に従って行ってください。

- ① ポンプを手動運転して、しばらく送水した後、スルース弁を閉じてください。
- ② メインスイッチを「停止」にして、運転を停止してください。
- ③ スルース弁を徐々に開き、調整圧力で再びスルース弁を閉じてください。
- ④ 次頁に従って圧力センサーを調整してください。

- ・赤ランプ点灯の場合：圧力センサー頭部のねじを+ドライバーで赤ランプが消灯するまで反時計方向に回し、その後時計方向に回し赤ランプが点灯を始める位置に合わせてください。
- ・赤ランプ消灯の場合：圧力センサー頭部のねじを時計方向に回し、赤ランプが点灯を始める位置に合わせてください。

圧力センサーの調整を下式により行い、始動圧力の変更を行ってください。

$$\text{調整後圧力 (始動圧力)} \leq \text{標準始動圧力} - \text{吸上全揚程 (m)} / 10$$



ON : 赤ランプ点灯
OFF : 赤ランプ消灯

1 0. 6 通常運転

〈図-1 3〉

- (1) バルブ類の開閉をご確認ください。

試験用配管のスルース弁	→	閉
ユニット吐出口、およびアキュムレータのスルース弁	→	開

- (2) 制御盤をご確認ください。

		単独運転	交互
メインスイッチ	→	「自動」	「自動」
セレクトスイッチ	→		「1・2」

11 保守・点検

▲ 警 告

- 動かなくなったり異常（ケーブル破れ、コゲ臭いなど）がある場合、直ちに運転を停止して電源を遮断し、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に点検あるいは修理を依頼してください。異常のまま運転を続けたり、修理に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 修理技術者以外の方は、分解・修理・改造やケーブル交換を行わないでください。不備があると、故障・破損・感電・火災の原因になります。
- 点検・交換の際は、必ず電源を遮断して作業を実施してください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
- ポンプを移動し再設置する場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。据付に不備があると、感電や火災、漏水などの原因になります。
- アキュムレータの封入ガス圧力が低下している場合、空気または窒素ガスを封入してください。ポンプがチャタリングを起こし故障の原因になります。また、水素ガスなどの爆発性ガスを封入しないでください。爆発する恐れがあります。
- 制御盤（電装箱）などの電気部品の点検・交換時には、電源遮断後テスターなどで無電圧になっていることを確認してから作業を実施してください。感電やけがの恐れがあります。
- モータの絶縁抵抗値が1 MΩ以下に低下した場合、すぐにご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に連絡してください。モータが焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。
- 修理の際は当社純正部品を使用してください。純正部品以外を使用された場合、故障及び事故の原因になります。また、正常な機能を発揮できない恐れがあります。

▲ 注 意

- 分解・点検時には内部の圧力がゼロであることを確認してください。水が噴き出し事故やけがをする恐れがあります。
- ポンプが高温の場合はプラグ（呼び水口）を取り外さないでください。熱湯が噴出し、火傷をする恐れがあります。
- 絶縁抵抗測定は250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。制御盤が破損する恐れがあります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、落水などによる空運転などの恐れがあります。
- 長期間使用にならない場合は、ポンプ及び配管内の水を抜いてください。滞留水が腐敗し、雑菌が繁殖する恐れがあります。
- 長期間安心して使用頂くために定期点検と日常点検両方の実施をお勧めいたします。点検を怠ると、ポンプの故障、事故などの原因になります。定期点検についてはご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 定期的に保護継電器の動作確認を行ってください。事故時に正常動作せず、感電や故障の恐れがあります。
- 消耗品は定期的に交換を行ってください。劣化・摩耗したまま使用になると、水漏れや焼付き・破損などの事故の原因になります。定期点検、部品交換などは、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に依頼してください。
- 圧力計・連成計などを使用の際は、測定時以外はコックを閉じてください。常時開けておくと圧力計・連成計などが故障する原因になります。
- 点検は点検項目に従って必ずおこなってください。故障を未然に防止できず、事故につながる恐れがあります。
- モータの絶縁抵抗試験を行うときは配線を制御盤から外し、絶縁抵抗計により接地端子とモータの各配線間を測定してください。配線を繋げたままで絶縁抵抗試験を行うと制御部品が故障する原因になります。
- 冬期にご使用にならずに電源を切られる場合は、必ずポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が入ったまま放置するとヒータ又は凍結防止機能が動作できないため、ポンプが凍結破損する恐れがあります。

1.1.1 日常点検

項目	確認事項	判定基準
ポンプ	メカニカルシールの水漏れ	滴下しないこと
モータ	外被温度	周囲温度+70℃以下
	玉軸受	異常な運転音・振動がないこと
	絶縁抵抗（注1）	1MΩ以上
ユニット	始動圧力	設定圧力値より大きく変化のないこと
	電 流	銘板電流値以下のこと
	電 圧	定格電圧の±10%以内
	水漏れ	各部より漏水のないこと

（注1）モータの絶縁抵抗はケーブルを外して測定するか、250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。制御盤に250Vを超える絶縁抵抗計を使用すると測定できません。

異常を早く発見するには、日々の変化を知ることが大切です。そのためにも運転日誌を付けられることをお勧めします。

1 1. 2 6ヶ月点検

項目	確認事項	判定基準
アキュムレータ	封入ガス圧力 (注2)	銘板値±0.01MPa {0.1kgf/cm ² }
	動作	動作が不確実でないこと
制御盤	盤内の結露	結露がないこと
	リレー類	変色等の異常がないこと

(注2) アキュムレータのスルース弁を閉じてから、アキュムレータ下部のドレン口の弁を開き水を抜いて測定してください。封入圧力が不足している場合は空気を補充し銘板記載値にしてください。

※日常および定期点検を怠ると、ポンプの故障、事故などの原因になる恐れがあります。

弊社ではお客様に安心して末永くお使いいただけるよう、定期点検（有償）も承っております。詳細につきましては、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所までお問合せください。

1 1. 3 消耗部品

<表-2>の部品は消耗部品です。交換時の目安を参考にして部品を交換してください。

<表-2>

部品名	交換時期の目安	状態の目安
Oリング (パッキン)	—	分解・点検毎
メカニカルシール	1年	目視できるほど漏洩するとき
玉軸受	3年	軸受が過熱したり、異音・異常振動が発生するとき
アキュムレータ	3年	ポンプの停止時間が著しく短くなったとき
圧力センサー	3年	圧力の設定が不確実なとき
流量スイッチ	3年	動作が不確実なとき
チェック弁	5年	弁の動作に不具合が生じたとき
電装品	5年	各運転の動作が不確実なとき
電磁接触器	3年	誤動作したり、接点の荒損がひどいとき

12 故障の原因と対策

▲ 警告

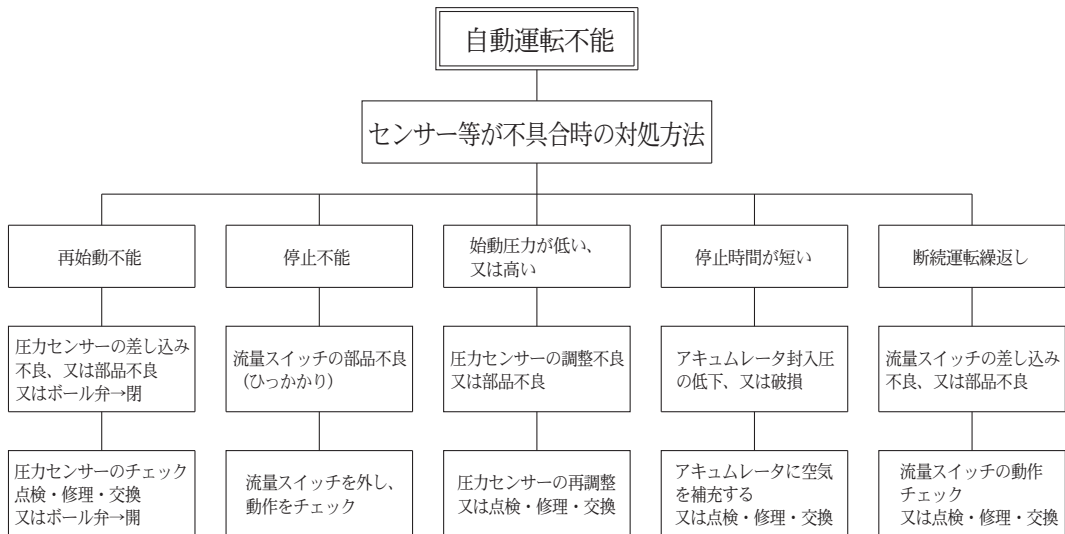
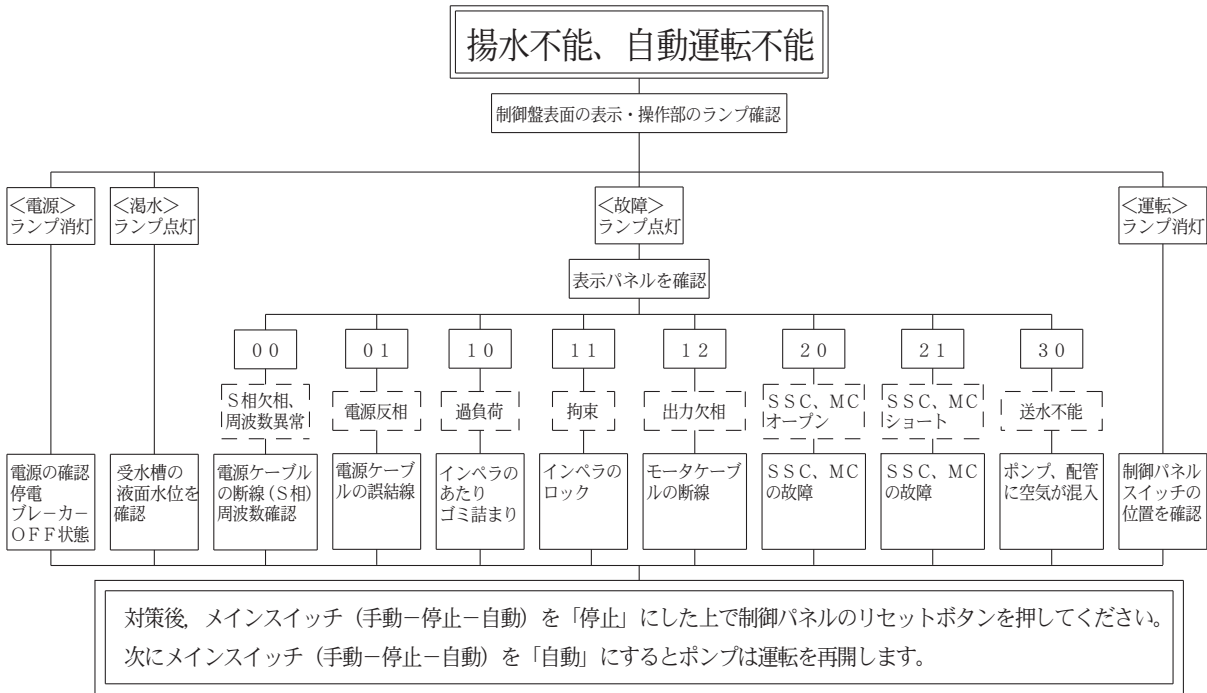
- 動かなくなったり異常（ケーブル破れ、コゲ臭いなど）がある場合、直ちに運転を停止して電源を遮断し、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に点検あるいは修理を依頼してください。異常のまま運転を続けたり、修理に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 点検・交換の際は、必ず電源を遮断して電気がきていないことを確認してください。感電やけがをする恐れがあります。

1 2. 1 故障表示一覧（単独運転機種は除きます）

故障時には制御基板上表示パネルにて故障内容をデジタル表示します。また、故障来歴の内容、表示については<図-11>を参照してください。

注1) 故障リセットは、故障原因を取り除いてからリセットボタンを押してください。

故障診断フローシート（主な故障内容を記載）



※ 1. 流量スイッチはコネクタから外すとポンプが停止するように設計されています。

1.2. 2 故障の原因と対策

現象	原因	対策	本文ページ
電源表示灯が点灯しない	漏電しゃ断器が切れている	漏電しゃ断器を入れる	
	電源線R又はT相の欠相	電源線R又はT相を結線する	10
モータは回転するが水が出ない、もしくは水は出るが圧力が上がらない	受水槽が満水になっている(手動時)	受水槽に水を補給する	
	スルース弁が閉じている、半開である	スルース弁を開ける	16
	ポンプの回転方向が逆である	結線を正しくする	10、11
ポンプが停止しない 水を使用しないのに運転する	ポンプの中が満水していない	呼び水を完全に行う	14
	メインスイッチが「手動」になっている	メインスイッチを「自動」にする	15
交互運転をしない	配管より水が漏れている	点検、修理する	
	メインスイッチが「手動」になっている	メインスイッチを「自動」にする	15
停止時間が短い	セレクトスイッチが「1」または「2」になっている	セレクトスイッチを「1・2」にする	15
	圧力センサーの故障	圧力センサーを交換する	
	流量スイッチの故障	流量スイッチを交換する	
	アキュムレータのスルース弁が閉じている	スルース弁を開く	16
	アキュムレータの封入ガス圧力の低下	空気を補充する	
	アキュムレータの破損	アキュムレータを交換する	

ポンプが始動・停止する際に、メカ鳴き（“キュッ”という音がする）することがありますが、異常ではありません。

故障には予想外なことがあります。異常を発見したら速やかに対策することが大切です。故障の原因が分からないときは、ご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご連絡ください。ご連絡の際は、ポンプの形式、製造番号、故障（異常）の状況をお知らせください。



コンフォート アース

Comfort Earth® 水を通じて 地球環境を 考える

株式
会社

川本製作所

<http://www.kawamoto.co.jp>

本 社 〒460-8650 名古屋市中区大須4-11

☎052-251-7171 (代)

岡崎工場 〒444-8530 岡崎市橋目町御領田1

☎0564-31-4191 (代)

検査合格証

株式会社 川本製作所

検査

検査
責任者